

教育目標		<b>豊かな心 すこやかな体 人とかかわる力 ー自然いっぱい、笑顔いっぱい みんなのせつよう幼稚園ー</b> ・自分で考え、行動する子ども ・健康でのびのびと活動する子ども ・みずみずしい感性をもつ子ども ・思いやりの心をもつ子ども ・仲間と共に伸びる子ども						
重点目標		1・豊かな心を持ち、すこやかな体・人とかかわる力を育てる保育を推進する			2・地域に開かれた幼稚園づくりを推進する。			
項目	重点項目	具体的施策	達成目標	自己評価	成果と課題	改善策	学校関係者評価	
学 力 の 向 上	教育課程	<ul style="list-style-type: none"> <li>教育目標の達成に向け、24ヶ月を見通した指導のポイントを入れた教育課程の見直し</li> <li>来年度より実施される、3歳児教育課程の編成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教育課程の中の環境構成や教師の援助を、今年度の幼児の姿や保育実践から見直しを行う。</li> <li>市の3歳児教育課程を基に、自園の教育課程表を編成する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教育課程を学期ごとに見直し、今年度の保育実践を反映させる。</li> <li>保護者アンケートにおいて「お子様は自然とかかわって遊ぶことが好きである。」「お子様は友達と一緒に遊ぶことを楽しんでいる。」と回答した割合が共に85%以上になる。</li> <li>自園の3歳児教育課程表を編成する。</li> </ul>	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>教育課程の学期ごとの見直しは、年度末になった。</li> <li>アンケート結果はそれぞれ97%、100%の肯定的な回答が得られ、幼稚園での取り組みが評価された。</li> <li>自園の3歳児教育課程表を編成した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>3年保育実施初年度であることを踏まえ、学期毎に教育課程の見直しを行い、充実させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>次年度には3年保育の4歳児となることもふまえ検討されたい。</li> </ul>
	保育指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>保育方法の改善と工夫（試行錯誤を繰り返す遊びを生み出す環境の構成や援助）を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>年間2回講師を招聘し、園内研究会を行う。</li> <li>カリキュラムに基づいた保育を実践しながら、試行錯誤する幼児の姿を捉え、幼児の学びや、環境の構成及び教師の援助について事例研修を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>カリキュラムの実践を通して、幼児が遊びの中でどのような試行錯誤をしているか、またその中で学びや育ちは何かを明らかにし、保育実践力の向上につなげる。</li> <li>保護者アンケートにおいて、「子どもは自ら環境にかかわり、考えたり試したり工夫したりしながら遊ぶ楽しさを感じている」「幼稚園は、教師が協力して教育活動にあたり、保護者の願いにこたえている」と回答した割合がともに85%以上になる。</li> </ul>	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>6月と2月に講師を招聘し、園内研究会を行った。また、好きな遊びの環境構成に視点をあてた職員のみ園内研究会を1学期に実施し、教師の資質向上に努めた。</li> <li>短期案の中に幼児が遊びの中で試行錯誤している姿及び、試行錯誤につながる環境構成及び教師の援助について記し、今後の保育内容や援助等を考える手立てとした。</li> <li>事例研究を一学期に行った。二学期以降は実施できなかった。</li> <li>アンケート結果はそれぞれ94%、100%の肯定的な回答が得られ、幼稚園での取り組みが評価された。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>来年度は拠点園となることや、これまでの研究を踏まえ、新たな研究テーマを考えていく必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>3歳児の発達の過程をとらえ、ふさわしい保育活動を展開し、教諭の指導力を高めてほしい。</li> <li>幼児一人一人を大事にする保育と、集団、異年齢等教育活動においては、バランスも大事か。</li> </ul>
	特別支援教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>どの幼児にもわかりやすい環境構成や教師の援助(保育のユニバーサルデザイン化)に努める。</li> <li>個別指導計画の目標を達成するために保育内容や支援方法を検討し実践する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>どの幼児にとってもわかりやすい環境構成、保育内容、指示の出し方を工夫した保育を実践する。</li> <li>個別指導計画について全職員で共通理解し、目標を達成するための保育内容を話し合い、その子に応じた支援を実践する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>月1回、短期案の中に、どの幼児にとってもわかりやすい保育についての、具体的な保育内容、援助、環境について記述する。</li> <li>月1回、短期案の中に、目標達成のための保育内容について、具体的に示す。</li> </ul>	5	<ul style="list-style-type: none"> <li>まとまった時間はとりにくかったが日々、情報交換を行い、具体的な保育内容、援助、環境について話し合い、視覚的支援を中心とした教材を作成したり、外遊びの環境を整えたりすることができた。</li> <li>短期案の中に目標達成のための保育内容を記述することはできなかった。今後、短期案の中にどのような形で保育内容をいれていくかが課題である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>短期案の中にどの幼児にもわかりやすい保育を意識した保育内容を明確に示していく(下線を引くなど)。</li> <li>短期案の話し合いの中で配慮を要する幼児一人一人に応じた合理的配慮を示していく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>特別支援教育における拠点園としての課題が出てくるのが予想されるが、その役割も果たしてほしい。</li> </ul>
豊かな心・健康やかな体	健康教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>基本的な生活習慣の確立や、身近な人との関わりを通して相手を思いやる心、自尊心を育む。</li> <li>運動遊びに取り組み、楽しんで体を動かす子どもを育てる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ほげんの話や「けんこうカレンダー」を活用し、基本的な生活習慣の形成を図る。</li> <li>子どもが自ら体を動かしたくなるような環境構成や援助について話し合い、継続して意欲的に運動遊びができるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>月に1回ほげんの話する時間を設けると共に「けんこうカレンダー」を活用し、親子で取り組む機会を持つ。</li> <li>講師を招聘し、親子ともに運動遊びをする機会を設ける。</li> <li>保護者アンケートにおいて「お子様は外遊びや身体を積極的に動かすことが好きである」と回答した割合が85%以上にする。</li> </ul>	5	<ul style="list-style-type: none"> <li>月1回のほげんの話と「けんこうカレンダー」の取り組みを通して家庭で生活習慣について話し合う機会ができた。</li> <li>講師を招聘し、土曜参観では親子で運動遊びを行い、講演会で運動遊びの大切さを保護者に啓発できた。</li> <li>保護者アンケートでは97%の肯定的な回答が得られ、幼稚園での取り組みが評価された。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>保健指導の取り組みから、必要な幼児はさらに個別で生活習慣の見直しを指導する。</li> <li>幼児の実態に応じ、体を動かして遊ぶことができるよう計画的に保育に取り入れる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>近年は、家庭において生活習慣の確立が難しいだろう。3歳児を迎え排彼の自立をはじめ丁寧な指導が求められる。</li> </ul>

開かれ信頼できる園	危機管理体制の整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>危機管理マニュアルに沿った避難訓練の実施。</li> <li>個人情報の保護・管理の徹底</li> <li>安全に活動できる環境の整備・管理の遂行</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>火災、地震、防犯等あらゆる災害を想定し避難訓練を実施し、防災意識の向上を図る。</li> <li>個人情報の管理システムの構築と危機管理意識の向上を図る。</li> <li>保護者とともに、環境整備に努める体制を遂行する。</li> <li>天災、季候変動に関する情報を敏感に察知し、安全安心を守る意識改革を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>年4回の避難訓練と引き渡し訓練を実施する。</li> <li>個人情報の取り扱いについて書面で確認する。</li> <li>一斉メールの活用を実施する。</li> <li>PTAのひまわりグループ活動を年間9回、その他必要時に数回程度の清掃週間に計画実施する。</li> <li>保護者アンケートにおいて、「幼稚園は子どもの生活や遊びの場としての環境を整えている」と回答した割合が85%以上になる。</li> </ul>	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>避難訓練では、あらゆる災害に対応できるように計画・実施できた。幼児の意識向上につながっている。</li> <li>個人情報の取り扱いについては、年度当初に保護者と書面にて確認し、意識向上及び保護に努めた。</li> <li>一斉メールの活用は必要に応じて実施したが、未登録者の扱いが課題である。</li> <li>ひまわり活動については、実施場所・時間をくぎって実施した。その他清掃週間を2回設け、保護者の負担感を軽減した。その他シルバーさんの協力を得られた。</li> <li>アンケート結果では、100%の肯定的な回答を得られた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>3歳児の安全管理の観点から、防災について職員の意識改革・見直しをする。</li> <li>園の環境整備については、PTA、保護者、シルバー、ボランティアなどの協力を得ながら推進する。</li> <li>個人情報の取り扱いについては、書面で管理するとともに、SNSの扱い等について啓発する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>次年度は3歳児を迎えることを考えると、安全管理においてより一層の意識及び整備が必要であろう。PTAをはじめ他の協力を得ながら、環境整備にも努めてほしい。</li> </ul>
	家庭・地域との連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域の子育て支援センター的役割や機能を充実させる。</li> <li>積極的に園の教育活動について情報を発信する。</li> <li>小学校との連携・交流を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>毎日園庭開放を実施し、子育て相談に応じる。</li> <li>預かり保育(せつようタイム)を実施する。</li> <li>未就園児交流「ちびっこ交流会」を、計画・実施する。</li> <li>シニアサロンの方との交流する機会を設ける。</li> <li>ホームページを月に3回以上更新し幼稚園の様子を発信する。</li> <li>クラスだより、園だよりの発行や掲示板等を活用し、本園教育の発信に努める。</li> <li>教師間連携と幼児・児童の交流を計画・実施する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>毎日の園庭開放を実施する。</li> <li>預かり保育(せつようタイム)を年間10回行う。</li> <li>未就園児交流「ちびっこ交流会」を地域に広く呼びかけ、年間11回実施する。</li> <li>シニアサロンの方に、「敬老の日の集い」への参加を呼びかけ触れ合う。</li> <li>ホームページを月3回以上更新する。</li> <li>クラスだよりを月1回発行する。また、園だより等を定期的に発行したり、掲示板等を活用して教育活動の写真を掲示したりして本園の教育について発信する。</li> <li>摂陽小学校校内研究会及び研究会への積極的な参加及び園内研究会への参加呼びかけをする。</li> <li>幼児・児童の交流活動について計画・実施の充実を図る。</li> </ul>	5	<ul style="list-style-type: none"> <li>園庭開放を活用している園児・保護者が特定されてきた。</li> <li>預かり保育「せつようタイム」は、年間10回実施することができた。</li> <li>未就園児親子の交流会「ちびっこ交流会」は、年間11回実施した。参加者が延べ50組あった。</li> <li>ホームページは、ほぼ毎月7回以上更新することができた。</li> <li>本園の教育発信については、今後も工夫していく必要がある</li> <li>摂陽小学校の校内研究会への参加は、積極的に行った。教師間の交流や連携が昨年度よりもスムーズに行われていると実感している。幼児・児童の交流についても、昨年度の実践をもとに話し合うことができた。今後も双方に価値を見いだして実施する必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>預かり保育(有料)実施に伴い、現状・課題・改善を実施する。</li> <li>「ちびっこ交流会」の開催について時期・回数・内容の検討を図る。</li> <li>掲示板、啓発紙、クラスだより等、タイムリーに実施する。</li> <li>小学校との接続に向けた連携・交流の充実を図り、拠点園としての役割を果たす。また、接続カリキュラムを今後2年間で作成する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>預かり保育の実施に伴い、職員配置も変わり課題が出てくるだろうが、改善を図りながらすすめてほしい。</li> <li>昨年度よりも小学校との連携が強化されていることはよかった。幼・小相互にメリットがあると思われるので、次年度の拠点園としての実践も期待したい。</li> </ul>
おける人権教育の推進	人権教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>子ども、保護者の人権教育の推進</li> <li>教師自身の人権感覚を磨く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>人と関わる中で、相手や自分を大切にしたり、思いやりの気持ちを育んだりする。また、命を大切にしようとする気持ちを養う。</li> <li>教師も、積極的に研修会に参加するとともに、保護者にも参加を呼びかけたり人権懇談会を開いたり等、家庭に人権教育の大切さを啓発していく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>幼児の頑張る過程や、ありのままの姿を認めることで、自尊感情を育み、相手の気持ちを考えたり、自分の行動を振り返ったりする機会をつくる。</li> <li>保護者アンケートにおいて、「子どもは幼稚園で、自分を大切にすることや、友達との関わり方、他への思いやりについて教えてもらっている」と回答した割合が85パーセント以上になる。</li> <li>保護者や教師が人権教育研修会に参加する。</li> </ul>	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>園生活の中で努めて幼児の思いを開き、特に幼児同士の思いの衝突があった時にはじっくり互いの気持ちを聞く時間を設けた。また、職員全員で幼児の実態について常に情報交換し、共通理解をした。</li> <li>アンケート結果は94%の肯定的な回答が得られた。</li> <li>教師と約90%の保護者が年1回以上人権研修会に参加した。</li> <li>人権懇談会を開き、自分や我が子を大切に思う気持ちを持てる機会を設け、家庭に人権教育の大切さを啓発した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>引き続き人権研修会参加の呼びかけや人権懇談会等を通して家庭への啓発に努めるとともに、教師も人権意識を高め、子どもに伝えていけるよう、人権研修に積極的に参加したり人権について考えたりしていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>今後も一人一人の思いが尊重されるような保育を進めてほしい。</li> </ul>

学校関係者総括

・今年度も精力的に様々なことに取り組み保護者からも高評価を得たことはよかった。今後、さらに充実を図るためには、少数派の意見等から改善点を見出ししていくことも必要か。

次年度に向けた重点的な改善点

・次年度実施の3年保育、預かり保育及び本園の拠点園としての役割の遂行において、教職員一体となって実態把握から課題を見出し、改善を図りながら本園の教育を推進する。

